

会 議 録

1 会議名

令和2年度第1回上越市地産地消推進会議

2 議事（公開・非公開の別）

- (1) 上越市地産地消推進の店認定審査（非公開）
- (2) 令和元年度取組報告（公開）
- (3) 令和2年度経過報告及び今後の取組について（公開）
- (4) その他（公開）

3 開催日時

令和2年6月25日（木）午後2時から午後3時30分

4 開催場所

上越市役所 402会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

議事(1)については、「個人に関する事項」を審議するため非公開としました。

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：湯沢雅彦、勝島勝美、高橋道代、植村孝弘、小森茂、松苗初清、片田和夫
井上瑞枝、齋藤政明
- ・ 事務局：農政課 古澤課長、太田副課長、高橋係長、北山主任
農村振興課 藤井主任、農林水産整備課 齋藤主任

8 発言の内容

（1）開会

【高橋係長】

- ・ 上越市地産地消推進の店認定事業実施要綱第13条第9項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。
- ・ 会議所管課が令和2年度より農村振興課から農政課へ変更となったことから職員を紹介。

【古澤課長】

- ・ 農村振興課に平成27年度から29年度まで3年間在籍し、地産地消推進を担当していた。今年度から農政課に変わったが、改めてよろしくお願ひしたい。

- ・コロナ禍で地元の農林水産物をはじめとして、地産地消を進めていこうという意識が高まっている。農林水産部では、生産現場と合わせて、地産地消を推進していきたい。
- ・本日の会議及び認定店を通じて、地産地消が一層推進するよう、我々も支援していくので、委員の皆様からも、積極的に取り組んでいただくようお願いする。

(2) 会長あいさつ

【植村会長】

- ・冒頭にも話があったが、コロナの影響で、この会議においても、昨年度の最後の会議で予定されていたものが書面での審議となった。
- ・各方面でもかなり影響が出ており、今日出席の委員の皆様は食品関係の方が多いが、大きな影響が出ているのだろうと感じている。まだ、進行中で、予断を許さない状況ではあるが、一方では往来が出てきたことから、経済の上でも波及しつつあると感じている。
- ・本日は、皆様から現在の状況や今後の動きなどのご意見を伺いたい。特に影響が大きい飲食店の関係については、今日事務局から案内があると思うが、地産地消推進キャンペーンを通じて、少しでも販売促進の後押しになればと感じている。
- ・本日は、今後の地産地消の拡大に向け、皆様から忌憚のないご意見を賜りたい。

(3) 議事

- ① 上越市地産地消推進の店認定審査（新規申請）（非公開）
- ② 上越市地産地消推進の店認定審査（認定の更新）（非公開）
- ③ 令和元年度取組報告（公開）

【植村会長】

- ・令和元年度取組報告について事務局から説明願いたい。

【北山主任】

- ・資料No.6により説明（説明省略）

【植村会長】

- ・今ほど事務局から説明があったが、各委員からご質問やご意見を伺いたい。

【湯沢委員】

- ・飲食店側の者として、「テイクアウトができる地産地消推進の店」を市ホームページで取り扱っていただいたことに感謝申し上げます。これを機に、市ホームページのアクセス数が

増えていることは、ありがたい話だと思う。

- ・今、他の地域でも、コロナの影響で地産地消の機運が高まっていると言われているが、これを機に上越市でもさらに伸ばしていければいいと思う。その上で、市ホームページの「上越市 Go to キャンペーン」のページを見ているが、「身近な地域のグルメ情報」に「地産地消推進の店ガイド」が掲載されているので、またアクセス数が増えるのではないかと期待している。リーフレットもいいが、ネットでの情報発信にも力を入れていただきたい。

【植村会長】

- ・今、ネットでの情報発信についての話があったが、私もそう考えている。特に若い世代には、ネットでの情報発信が有効だと思う。事務局の説明にもあったが、県外客にしてみれば、紙媒体よりもネット配信のほうが有効的であると思う。

④ 令和2年度経過報告及び今後の取組について（公開）

【植村会長】

- ・令和2年度経過報告及び今後の取組について事務局から説明願いたい。

【北山主任】

- ・資料No.7により説明（説明省略）

【植村会長】

- ・今ほど事務局から説明を受けたが、委員の皆様からご意見・ご質問を伺いたい。

【湯沢委員】

- ・地産地消推進キャンペーンについて、去年のリーフレットを見ると、ナスや枝豆を使った具体的な料理が出てくるが、8月から10月末までとなると期間が長く食材の旬が過ぎてしまう。一つ二つの商品に絞ってしまうと、飲食店側が難しくなってくると思う。料理を載せないと、紹介が店の紹介だけになってしまうが、その辺の考えはあるか。

【北山主任】

- ・期間が1か月間だとスタンプラリーで回り切れないという参加者の声結構あった。期間を延ばせば、皆さんから回ってもらえると思いき期間を伸ばした。
- ・食材の旬が過ぎてしまうという点は課題である。例えば、期間を区切ってメニューを提案していただくのも方法だと思う。また、表記を「上越産農産物使用」という形にするのも一案である。食材の関係については、参加店舗募集までには検討し対応したい。

【勝島委員】

- ・キャンペーンが1か月から2か月半に延びたことは非常にいいことだと思う。うちは魚屋で、8月は底引き網が禁漁であるため、メギスは販売できない。10月末までにしてもらおうと、野菜だけでなく魚を使った料理も増やせる。

【植村会長】

- ・周知はどういうことを考えているか。

【北山主任】

- ・リーフレットを3,000部作成し、ポスターを100枚作成する。市の事業では制約があり、市の施設や観光案内所、キャンペーン参加店舗に配る程度になってしまう。駅や高速道路のサービスエリアはポスター、リーフレットの設置は有料で、駅については、リーフレット自体設置できないということである。フリーペーパーへの広告掲載も考えている。
- ・期間を延ばすことで、キャンペーン期間の始め、中、終わりとは何段階かに分けて周知ができるかと考えている。
- ・ネットでの情報発信では、市ホームページだけでなく、参加店舗からも協力をいただき、お店からの発信も積極的をお願いする。拡散できる方法はあると思う。

【高橋委員】

- ・数年キャンペーンを実施しているが、参加者のリピート率は分かるか。

【北山主任】

- ・リピート率は把握していないが、毎年必ず参加しているという方はいる。

【高橋委員】

- ・新規の人が増えているといいが、景品が当たるという理由で、何年もリピートしている方が多いのであれば、数年やってもあまり意味がない。それなら、違う方法を検討することも必要ではないか。
- ・実際、コース料理を出すお店では、スタンプラリーでぱっと来るお客さんが来ない。参加してみたいが、店側として無理だというふうになっていくと、キャンペーンをしてもなかなか参加できない状況になってしまう。スタンプを押す手間もあるだろうし、お店側としても、面倒だから参加しないということもあると思う。もうちょっと参加しやすい方法がないかと思う。お店の宣伝をしてもらいたい。お店に貼るものがあってもいい。

【高橋係長】

- ・我々もスタンプラリーを続けていくのがいいのか、また、せっかく続いてきたものを絶や

さないという考え方もある。新規店舗をいかに取り込んでいくかというのも大事なところである。我々も検討しているが、なかなかいい案がなく、今回、委員の皆様からご意見を伺い、それを参考に来年度以降につなげていければいいと思っている。

- ・非常に限られた予算の中で、いかに効率のいい事業ができるかを考えてはいたが、結局このような形になっている。なるべく新規の方も取り入れながらと思っているので、いいアイデアがあればお聞かせいただきたい。

【勝島委員】

- ・小売店が参加できないものかと思う。「上越の魚」「上越の野菜」コーナーで、いくらか買ってくれた人にはスタンプを1個押すなどであれば、地産地消で扱っている小売店の参加も増えると思う。

【北山主任】

- ・飲食店が多くなっているが、昨年度は八百屋さんが参加するなど、小売店からも参加してもらっている。加工品だけでなく、野菜などのそのものも対象商品としているので、今回も小売店から参加していただきたいと思っている。

【湯沢委員】

- ・どこかが軸になって、野菜でも魚でも統一した「上越産シール」を作ることもいいかもしれない。

【植村会長】

- ・小売店も参加しやすい内容、「上越産シール」の導入については、来年度以降の課題としていただきたい。

【湯沢委員】

- ・景品をもっと増やすことはできないか。参加店舗の協力をいただいて増やすことは可能だと思う。参加料がかからないわけだから、ある程度の基準を設けて参加全店舗からもらってもいいと個人的には思う。

【勝島委員】

- ・景品がたくさんあれば、魅力が増えると思う。

【北山主任】

- ・いままで参加店舗から提供景品をいただいているが必須ではなかった。昨年度も提供景品をいただいていた、景品はお店で引き換えて、再度来店してもらおう仕組みを作っている。景品提供を必須とすると、参加店舗が減少することが懸念される。

【植村会長】

- ・キャンペーンについては、今年度はこのような内容でよろしいか。

【全委員】

- ・了承

⑤ その他、上越市の地産地消の推進についての意見交換（公開）

【植村会長】

- ・現在の状況から、委員の皆様から地産地消推進についてのご意見を伺いたい。青果、魚市場はどのような状況か。

【小森委員】

- ・青果市場は、4月は花見がなかったことで、数字の落ち込みがあった。5月は全国的な自粛でかなり落ち込んだ。全体的な消費は増えていたため、飲食店の窮状に比べれば、まだいいのかもしれない。
- ・6月20日を過ぎてから、動きが戻ってきて、全国的に動き出し、潤沢にあったものがないという状況がある。背景にあるのは、外食チェーンが店を開けてきていて、農協などから市場外流通でものを取っているため、市場に出てくる量が減っている。
- ・学校給食については、前年並みに戻ってきている。7月の上旬から市域については、それなりの消費が期待できると思う。
- ・観光の面では、妙高方面が7月1日から営業するという話なので、その辺がどうなるか。先日、群馬県に行ってきたが、今年の海は大丈夫かと聞かれた。新潟の海はそれなりに人が行ってもいいように対応しているかという人もいた。現状としては徐々に戻ってきていると実感している。

【松苗委員】

- ・魚市場は、4月の花見はだめ、5月のゴールデンウィークは一切だめ、鮮魚センター、飲食店関係がだめで、4月、5月の数字の落ち込みは異常だった。ただ、水産業界は、量販店などでそれなりの売り上げになり、数字は落ち込んだが、大きな落ち込みではなかった。
- ・6月20日以降、自粛が解けて、数字が徐々に伸びてきている。ただ、ゴールデンウィークに人が来なかったことが一番大きい。
- ・これから、ゴールデンウィークのような現象がお盆で起こった場合、上越には来てもらいたいが、来ていただいてコロナが爆発的に発生することも怖い。

(4) 閉会

【植村会長】

- ・今ほど、委員の皆様から発言のあった貴重なご意見は、事務局で今後の事業に反映していただきたい。皆様のご協力に感謝申し上げます。

9 問合せ先

農林水産部農政課

TEL : 025-526-5111 (内線 1282)

E-mail : nousei@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。